

科目名	社会保障制度(関係法規含む)						
科目名(英)	Social security system						
単位数	1	時間数	15時間	担当者	小川 春美		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務(小川)		
対象学科・学年	言語聴覚学科 3年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障の全体の仕組みを理解し、個別の保険制度を学ぶ ・言語聴覚士に関わる法律や規定を理解する ・関連職種に関する理解を深める ・実際に働くにあたって必要な法律や規定を知る 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				社会保障制度の仕組み、各種制度について概説することができる。	
	○	○				医療関係法規について概説することができる。	
	○	○				言語聴覚士法について概説することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院 2020 能登 真一 リハビリテーション管理学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	社会保障制度	社会保障の機能、社会福祉援助・主要法則		授業内容に該当する指定教科書の該当部分を30分復習する。		
	2		公的扶助、障害者手帳		内容を受けて国家試験問題に取り組む授業の指定教科書該当部分を30分復習する。		
	3		介護保険制度、医療保険制度、年金制度		内容を受けて国家試験問題に取り組む授業の指定教科書該当部分を30分復習する。		
	4	関係法規	法の概念 医事法規とは		内容を受けて国家試験問題に取り組む授業の指定教科書該当部分を30分復習する。		
	5		医事法		内容を受けて国家試験問題に取り組む授業の指定教科書該当部分を30分復習する。		
	6		労働関係法規		内容を受けて国家試験問題に取り組む授業の指定教科書該当部分を30分復習する。		
	7		言語聴覚士法		内容を受けて国家試験問題に取り組む授業の指定教科書該当部分を30分復習する。		
	8	言語聴覚士法	言語聴覚士法施行規則、言語聴覚士法施行令		社会保障、関係法規についての用語について説明できるように30分復習する。		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	地域言語聴覚療法						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	15時間	担当者	永江 信吾		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼間部3年生						
授業概要	2025年を目途に地域包括ケアシステムの構築が進められている。地域言語聴覚療法を行う上で、言語聴覚障害および言語聴覚臨床の基礎となる社会福祉、リハビリテーションに関する基本的知識を修得する。また、今まで習得した知識をベースに模擬介護予防事業の計画を立てる						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				地域リハビリテーションの社会的背景と意義を説明できる。	
	○	○				成人・高齢者の地域生活への支援を説明できる。	
	○	○		○		地域住民に向けて、講座を模擬的に開催することができる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院、2019 藤田郁代(監)「標準言語聴覚障害学 地域言語聴覚療法学」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	地域包括ケアと地域言語聴覚療法(1年次の復習)			地域包括ケアシステムの用語の整理を行う(30分)		
	2	地域言語聴覚療法の展開(地域ケア会議) exercise 言語聴覚士の紹介			言語聴覚士について一般の方が分かる資料をA41枚で作成する(30分)		
	3	地域言語聴覚療法の展開(失語症者意思疎通支援者) exercise 失語症とは?			失語症について一般の方が分かる資料をA41枚で作成する(30分)		
	4	地域言語聴覚療法の展開(介護予防事業) exercise 難聴ってなに?			難聴について一般の方が分かる資料をA41枚で作成する(30分)		
	5	地域言語聴覚療法の実際-先輩言語聴覚士から話をきく-訪問リハ			感想をA41枚以内にまとめる		
	6	介護予防事業の立案・作成(グループワーク)			グループ内で割り当てられた事柄について調べる		
	7	グループ発表			自己評価を行う。		
	8	まとめ(用語の復習と小テスト)			用語について説明ができるように復習する		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	以下を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業後の課題	○	○		○		40%
	小テスト	○					25%
	感想文				○		15%
	発表にむけての準備や協力	○			○		20%
履修上の注意	授業後に課題を作成してもらう。締め切り日を守って提出すること。						

科目名	拡大・代替コミュニケーション学						
科目名(英)	Augmentative and Alternative Communication						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	久保 健彦		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	言語聴覚士として教育機関に勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 3年						
授業概要	①コミュニケーション支援のための考え方、概念を学ぶ。 ②コミュニケーション障害の改善および能力維持、あるいは能力の獲得および発達促進のための様々な代替コミュニケーション手段について概説する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				コミュニケーション障害者児者にとってのAACの必要性について本質を説明できる	
	○	○				コミュニケーションエイドについて基礎的な方法を説明できる	
	○	○				コミュニケーションエイド利用の実際について症例を通して活用法を選択することができる	
			○	○		基本的なコミュニケーションエイドの操作ができる。	
		○	○			スイッチやブザーなどを作成し基本的なAACの操作ができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:建帛社, 2009 言語聴覚療法シリーズ 16「改訂 AAC」 久保健彦 編著,						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	AACとは何か	AACで何を学ぶのか			本日の授業範囲について教科書を復習する	
	2		AACの歴史と概念、障害・症状別の援助方法			本日の授業範囲について教科書を復習する	
	3	技法	非エイド・コミュニケーション			本日の授業範囲について教科書を復習する	
	4		ローテク・コミュニケーション・エイド			本日の授業範囲について教科書を復習する	
	5		ハイテク・コミュニケーション・エイド			本日の授業範囲について教科書を復習する	
	6		ハイテク・コミュニケーション・エイド(演習)			本日の授業範囲について教科書を復習する	
	7		各種技法のまとめ			本日の授業範囲について教科書を復習する	
	8	症例	臨床の実際 小児			演習2の準備を行う。	
	9		臨床の実際 成人			演習2の準備を行う。	
	10	演習1	活用できる福祉制度			本日の授業範囲について教科書を復習する	
	11		様々なコミュニケーション機器を操作してみる			本日の授業範囲について教科書を復習する	
	12	演習2	スイッチ、ブザー、BDアダプタなどを実際に使えるようにする(スイッチ 選択の基礎知識、フィッティング、工具の使い方の講義を含む)			製作物の作成で時間内にやり終えなかったものに取り組む	
	13					製作物の作成で時間内にやり終えなかったものに取り組む	
	14					製作物の作成で時間内にやり終えなかったものに取り組む	
15	まとめ	制作物のプレゼンテーションとまとめ			まとめの内容をもって、国家試験問題に取り組む		
評価方法	(1)定期試験(筆記実技)は実施せず、授業中の取り組みと、演習2における制作物、及びそのプレゼンテーションと口頭試問で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技	○	◎	◎	◎		100%
履修上の注意							

科目名	補聴器・人工内耳						
科目名(英)	Hearing aids, Cochlear implant						
単位数	1	時間数	30時間	担当者	白石 君男		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 3年						
授業概要	補聴器の仕組みと機能および電気音響規格を理解し、聴覚障害者に補聴器を適切に適合する方法を説明できる。また人工内耳の仕組みと適応範囲を理解し、リハビリテーションについて説明できる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				補聴器の構造と機能を説明できる。	
	○	○				人工内耳の構造と機能を説明できる。	
	○	○				補聴支援システムを概説できる。	
	○	○				補聴器・人工内耳の検査を概説できる。	
	○	○				補聴器・人工内耳の調整について概説できる。	
テキスト・教材 参考図書	特になし(講義中に資料配布) 参考文献: 1)改訂第2版補聴器フィッティングの考え方(小寺一興、診断と治療社) 2)21世紀耳鼻咽喉科 補聴器と人工内耳(野村恭也 他 総編集、中山書店)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	補聴器のための音響学			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い箇所を見つけ、次回授業の際に提出する。(30分)		
	2	補聴器の型による分類と特徴			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い箇所を見つけ、次回授業の際に提出する。(30分)		
	3	補聴器の仕組み(マイクロホン、アンプ、イヤホン)			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い箇所を見つけ、次回授業の際に提出する。(30分)		
	4	補聴器の機能(出力制限装置など)			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い箇所を見つけ、次回授業の際に提出する。(30分)		
	5	単元テスト(国試模試)と解説			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い箇所を見つけ、次回授業の際に提出する。(30分)		
	6	補聴器の規格の見方と測定			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い箇所を見つけ、次回授業の際に提出する。(30分)		
	7	補聴器の増幅方式(リニアとノンリニア)			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い箇所を見つけ、次回授業の際に提出する。(30分)		
	8	補聴器の調整(音質調整、ベント、ダンパー、イヤモールド)			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い箇所を見つけ、次回授業の際に提出する。(30分)		
	9	種々の補聴器フィッティングの方法			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い箇所を見つけ、次回授業の際に提出する。(30分)		
	10	補聴支援システム(FM補聴器、赤外線補聴器、ヒアリングループ)			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い箇所を見つけ、次回授業の際に提出する。(30分)		
	11	単元テスト(国試模試)と解説			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い箇所を見つけ、次回授業の際に提出する。(30分)		
	12	人工内耳の仕組み(コード化法)			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い箇所を見つけ、次回授業の際に提出する。(30分)		
	13	人工内耳の適応(幼児と大人)			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い箇所を見つけ、次回授業の際に提出する。(30分)		
	14	人工内耳のための検査			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い箇所を見つけ、次回授業の際に提出する。(30分)		
	15	人工内耳のリハビリテーション			配布資料を見直し復習しておく。理解の低い箇所を見つけ、次回授業の際に提出する。(30分)		
評価方法	(1)単元テストを2回実施する。(2)定期試験を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	単元テスト	◎	◎				50%
履修上の注意							

科目名	臨床実習 I						
科目名(英)							
単位数	4	時間数	160	担当者	実習指導者		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院や施設にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 3年						
授業概要	臨床実習指導者の指導の下、言語聴覚士としての心構えと基礎知識、基礎技術を臨床の場で体験し学習する。本学科臨床実習では、担当症例を通して、情報収集・評価・言語聴覚療法計画立案・言語聴覚療法実施および記録報告等の一連の言語聴覚療法を実践する。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○	○		(1)言語聴覚士の業務の流れとその内容を理解する。	
	○	○	○	○		(2)言語聴覚士が働いている姿を通して、障害を持つ人への対応や職業人としての基本態度を学ぶ。	
	○	○	○	○		(3)学内にて習得した知識・技能・態度を統合して臨床に適用し、言語聴覚療法の評価診断および訓練・指導・支援の技能を習得する。	
テキスト・教材 参考図書	実習手引き、事故防止対策マニュアル、必要資料を随時配布する						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1						
	2						
	3						
	4						
	5						
	6	臨床実習 I (4週間)					
	7	2022年5月23日～6月18日					
	8	※施設の就業規定に応じて3週間実施(5日/週を基本とする)					
	9	開始前1週間は事前セミナー期間とし、心構え、メンタルヘルス、障害各論などの講義を行う。					
	10	実習後1週間は事後セミナー期間とし、実習で得た学びを整理し、発表を通して共有する。					
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	臨床実習指導者が学校の定める成績評価の基準によって評価した、実習成績報告点を7割 臨床実習期間中における学校評価項目による、評価点を3割 臨床実習成績報告点7割の重み付けは、4週間が3分の1、8週間が3分の2とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	上記参照	◎	◎	◎	◎		100%
履修上の注意							

科目名	臨床実習 I						
科目名(英)							
単位数	8	時間数	320	担当者	実習指導者		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院や施設にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 3年						
授業概要	臨床実習指導者の指導の下、言語聴覚士としての心構えと基礎知識、基礎技術を臨床の場で体験し学習する。本学科臨床実習では、担当症例を通して、情報収集・評価・言語聴覚療法計画立案・言語聴覚療法実施および記録報告等の一連の言語聴覚療法を実践する。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○	○		(1)言語聴覚士の業務の流れとその内容を理解する。	
	○	○	○	○		(2)言語聴覚士が働いている姿を通して、障害を持つ人への対応や職業人としての基本態度を学ぶ。	
	○	○	○	○		(3)学内にて習得した知識・技能・態度を統合して臨床に適用し、言語聴覚療法の評価診断および訓練・指導・支援の技能を習得する。	
テキスト・教材 参考図書	実習手引き、事故防止対策マニュアル、必要資料を随時配布する						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1						
	2						
	3						
	4						
	5						
	6	臨床実習Ⅱ(8週間)					
	7	2022年7月4日～8月27日					
	8	※施設の就業規定に応じて3週間実施(5日/週を基本とする)					
	9	開始前1週間は事前セミナー期間とし、心構え、メンタルヘルス、障害各論などの講義を行う。					
	10	実習後1週間は事後セミナー期間とし、実習で得た学びを整理し、発表を通して共有する。					
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	臨床実習指導者が学校の定める成績評価の基準によって評価した、実習成績報告点を7割 臨床実習期間中における学校評価項目による、評価点を3割 臨床実習成績報告点7割の重み付けは、4週間が3分の1、8週間が3分の2とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	上記参照	◎	◎	◎	◎		100%
履修上の注意							

科目名	臨床技術学Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30	担当者	灘吉享子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科3年						
授業概要	リスク管理を始めとして、臨床実習に臨む上で必須だが、直接教科学習で学ぶ機会の少な かった事項について、実習セミナーの形で学ぶ						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語聴覚士が行うべきリスク管理について説明できる	
	○	○				個人情報保護について述べるができる	
	○	○				バイタルチェック、行動観察のポイントを述べるができる	
	○		○			マニュアルに沿って検査の実施ができる	
テキスト・教材 参考図書	実習手引き、事故防止対策マニュアル、必要資料を随時配布する						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	リスク管理の実際			事故防止対策マニ+F19:AD33ユアルで、20分程度、予習・復習		
	2	個人情報保護について			実習手引きで10分の復習		
	3	症例レポートのまとめ方			実習手引きで10分の復習		
	4	バイタルチェックの実際			自主練習を2時間程度しておく		
	5	観察の仕方			自主練習を2時間程度しておく		
	6	観察情報のまとめ方			自主練習を2時間程度しておく		
	7	言語聴覚療法実技演習			自主練習を2時間程度しておく		
	8	言語聴覚療法実技演習			自主練習を2時間程度しておく		
	9	介護技術演習			車いす操作等の自主練習を復習として2時間程度しておく		
	10	評価実技テスト			自主練習を3時間以上おこなってテストに臨むこと		
	11	評価実技テスト			自主練習を3時間以上おこなってテストに臨むこと		
	12	療法実技テスト			自主練習を3時間以上おこなってテストに臨むこと		
	13	療法実技テスト			自主練習を3時間以上おこなってテストに臨むこと		
	14	知識習得度確認テスト			国試過去問で1時間程度勉強しておく		
15	知識習得度確認テスト			国試過去問で1時間程度勉強しておく			
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(実技)	◎	◎	◎			50%
	小テスト	◎	◎				50%
履修上の注意							